

THE SHINGASHI BASIN NEWS

1999(平成11)年1月25日 発行/新河岸川流域川づくり連絡会 朝霞事務局/朝霞市朝志ヶ丘3-4-2-201 THE&FAX/048-474-3504

- 川越五河岸の繁栄 寺尾河岸/斎藤貞夫
- 流域人インタビュー/大野和広
- 流域の街道を行く/廣野淳
- 他流域活動事例紹介
荒川流域ネットワーク実行委員会
- 河川法の改正について/建設省
荒川下流工事事務所
- 「川に学ぶ」社会を
めざして/
足立敏之
- 北川かっぱの会
の川づきあい活動と市民が
つくった北川復元プラン/宮本善和
- 流域情報
- 流域の生き物
埼玉県生態系保護協会

里川 SATO GAWA



切り絵イラスト/毛利博嗣

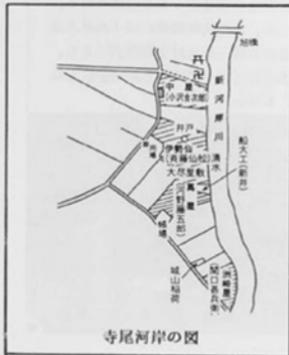
川越五河岸の繁栄 寺尾河岸 斎藤貞夫

「寺尾河岸」のことは「寺尾河岸由来記」を見ることによって成立過程が分かる。寛政15年(1683)に川越仙波東照宮再建に際して、その建築資材を江戸か

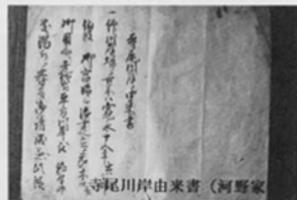
ら運送する為に、荒川筋の老袋河岸(現川越市)と平方河岸(現上尾市)に命じたが、春の洪水のために運送が不可能であった。そこで内川(新河岸川)筋を提案した結果、寺尾村(現川越市)の五反田が船着場として利用出来る事を見出。寛永10年(1638)春から秋にかけて、その地が利用された。その後、取り払いになったが、その折、古市場(現川越市)南畑(現富士見市)引又(現志木市)の三ヶ所の古土橋が船の通行に支障を与えた。そこで新たに板橋に代え船運が一層便利となり、寺尾下川岸が繁盛するようになった。

「寺尾川岸由来記」には、
(前文略)

右乃通古来乃川岸場相遺し申候ハ則孫八取立ノ川岸只今繁昌仕候事、来世二至り候ハ何人二而取立置候哉相分り兼何



寺尾河岸の図



申存シ、此度書置候者也

寛政十年午ノ正月

望月氏 伝左衛門

とあり、筆者がこの由来書を書く心構えを記している。同文書は、寺尾河岸の元船問屋「島屋」(当主 河野保氏)に保管されているが、新河岸川舟運の初期を知る上で貴重である。この河岸場に船問屋が公認されたのは安永3年(1774)のこと、明治初年まで「中屋」[伊勢仙]「島屋」[吉野屋]「石川屋」[新屋]「洲崎

屋」の7軒の間屋があった。そして今でもそれ等の名を巧みに織り込んだ七不思議



流域人インタビュー 県立所沢西高校科学部

水質調査の意味がわかってきた3年大野和広

所沢西高校は、今年で創立20周年になる。科学部はできて3年、それまでは同好会としてバードウォッチングなどの活動をしていた。いろんな事が出来るように科学部と名前を変えたのが3年前で、ちょうどそのときに、新河岸川水系連絡会から身近な川の一斉調査の呼びかけがあった。今は、水質調査が部としてのメインの活動になっている。

一昔前はどんな活動を

部活動は月・水・金の週3回です。文化祭などの行事があると、何かテーマを決めてやります。

今年は、炭色反応とガラス細工をやりました。炭色反応をやるときに、ヤケドをしてしまった部員もいます。

現在、いつも動いている部員は5人位。今の3年生は、最初8人入ったのですが、残っているのは1人だけです。



県内の高校生同士の交流を目的として毎年行われている科学展で、西高は96、97年は西部地区展だけでしたが、98年は中央展で発表しました。

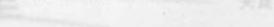
テーマは、所沢市北野最終処分場周辺の河川水と地下水の調査です

97年の一斉調査で礫川の電気伝導度が急に高くなっている所があり、

議の頃を知っている人がいる。

古い家で「新屋」(あたらしく)にあって間口が「鳥屋」といっても鳥がない、ドロ川まへの「石川屋」「中屋」といっても端にある、奥なる間屋が「入口屋」「蔵持」といっても蔵が無い。

明治10年代になると、間屋は4軒に減った。「鳥屋」は、埼玉県西北部に響、灰販売を積極的に行っている。



支流の六ツ家川がその原因らしいと気付いて調査を始めた。六ツ家川は、最終処分場の放流水が源流に流れ込んでいるが、この水は塩化物イオンが異常に高いので調べたところ、ナトリウムと塩素が非常に多く、カルシウム濃度も高いことがわかった。

地下水への影響が懸念されるため周



辺の井戸も調べたが、今のところ影響は出ていないと思われる。ただし、調べることができた井戸が限られているので地下水の流れの様子が変わらず、調べた方とは違う方向へ流れていることも考えられる。

また、六ツ家川は途中で伏流しているのがわかり、伏流量も調べている。3年生として、後輩に引き継いでもらいたいと思っていることは

原理も大事だが、処分場の環境に与える影響を考えていくこと。処分場に近しい学校なのだから、自分達がやるべきことだと思っています。

1年のときは、水ばかりでいやだと思っていたのですが、だんだん意味がわかってきました。将来は、できれば環境関係に進みたいと思っています。

科学部は、やる気がない生徒が大勢いるよりも、本当にやる気のあるヤツが少しでもいればいいと思っています。

流域の街道を行く 新河岸川の歴史と文化

流域の古社寺院(2)

二つの中水川神社

眞野 淳

礫川の流域に所沢市山口という地区があり、その場所は戦国武将で知られる山口小七郎家康(武蔵七党村山党)の居城の山口城がある。これより約100メートル程上流に向った右手の山一帯に広がる建造物のあるところが山口の中水川神社である。大鳥居近くには礫川が流れ、平行して西武狭山線が走る。周辺には多くの社寺院が林立し、古道が走る由緒ある地域にふさわしい。しかし、かつて古墳が存在したといわれているが市街地が神社の境内まで占め、現況からは窺い知ることはできない。

一方の三ヶ島の中水川神社は、東川の上流および不老川上流に挟まれた地点に同神社が位置する。また所沢・青崎街道に沿ってあり、古代から交通の要所として知られている。ところが、この二つの中水川神社のうち、いずれが延長五(927)年に編纂された「延喜式神名帳」に記す入郡式内社五座のひとつに比定されるかが問題となっている。今のところ礫川神社(北野天神社)と広瀬神社(狭山市)の二座だけが式内社として判明している。残りの三座については根拠となる資料に乏しく断定するに至っていない。従って両社に関する古記録は中世期に止まり、足利氏寄進状によれば「山口郡内北野宮」とあり、短絡的な見方をすれば、この地方の式内社は北野天神社ではなかったかと思われる。一方、北条氏照判物には「武州入東郡寄寺三ヶ島村宝蔵坊」とあり、式内社は三ヶ島に在した可能性もなくもない。



所沢市山口の中水川神社

他流域活動事例紹介

新河岸川流域の一部を含む荒川流域(下流域を除く)において、緩やかなネットワークづくりを継続中。

荒川流域ネットワーク実行委員会

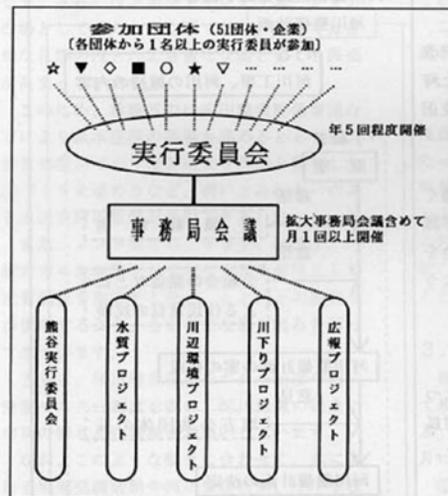
【概要】

水質の浄化と良好な川辺環境の保全、流域市民団体間の交流、関係行政との意志疎通等を目指し、1995年6月に設立された任意組織。流域で活動する環境関連団体や文化団体で構成されている。設立のきっかけは、建設省荒川上流工事事務所(以下、荒上)が毎年開催している「荒川懇談会」の席上、流域での連携を市民団体が呼びかけ、それに對し荒上が賛同したことによる。1995年10月より毎年、市民が主体となって「荒川流域ネットワークシンポジウム」を開催している。

荒川流域データ

全長	173 km
面積	2,940 km ²
人口	1,300万人
源流	埼玉県大滝村
河口	千葉県野田

【運営方法】



【事務局】

〒355-0017 埼玉県東松山市松葉町 3-2-5 まつやま書房内 ☎& FAX 0493-22-4162
代表: 恵小百合 事務局長: 清水洋子 常任事務局: 山本正史

【ポイント】

○ゆるやかな運営組織

○コミュニケーションの場づくり
自治体の担当者までできるだけ呼び出して、いっしょに対応していかなければ水質の浄化や川辺環境の保全は難しい。

○市民環境団体による自主的運営へのこだわり

<活動内容>

- 荒川流域ネットワークシンポジウムの開催(毎年11月)
- 流域の一斉水質調査の実施
- 川辺環境調査の実施、各河川・湖沼の見学
- 荒川本流の川下り(98年8,9月)
- 「荒川流域ネットワーク・ニュース」「事務局ニュース」の発行
- 荒川流域ネットワーク音楽祭の開催(97年9月)
- 熊谷イベント(98年10月芋煮会など)の開催
- 水質調査マップ、水質浄化を目指した「荒川流域水質浄化大作戦」(おかあさんたちはゆく第1弾)、荒川流域ネットワークを紹介するリーフレットなどの発行
- 参加団体への訪問、勉強会
- 行政との打合せ、陳情

河川法改正について (前号より続く)

3、河川整備計画制度の改正

これまでの河川法では、河川管理者は水系ごとに「工事実施基本計画」を決めることになっていましたが、今回河川法が改正されてからは計画の中でも河川の基本になることから「河川整備基本方針」と河川整備の具体的なことから「河川整備計画」とに別けて考えることになりました。

河川整備計画については具体的な川づくりが分かるように、地域の意向が反映されるような手続きが行われることとなり、河川整備基本方針については今までに工事実施基本計画で決められたことが河川管理者が全国的な整備バランスを保ちながら水系全体を考慮（基本高水、ダムと河道への分配、主要地点の主要地点の計画高水流量等）しなければならないとされました。

河川整備計画は、河川整備基本方針に沿って工事を進める区間について、具体的な計画として河川整備計画を決めなければならないこととされています。

4、河川整備計画を決める手続き

河川整備計画を決める手続きは目的改正と並んで、地域とつながりを持った河川行政のための規定として、河川法改正の大きなポイントです。

①学識経験者、地域住民の意見を聞く

河川整備計画を作る段階で、学識経験者の意見を聞いたり、公聴会を開催して地域の意見を反映するようにしました。

②地方公共団体の長の意見を聞く

さらに決定した河川整備計画について、都道府県知事又は、市町村長の意見を必ず聞くようにしました。

③公表

河川整備計画は、河川整備基本方針と同様、新たに「公表」することが義務付けられました。



(建設省荒川下流工事事務所調査課)

「川に学ぶ」社会をめざして

— 川を活かした環境教育の推進 —

建設省河川環境課建設専門官 足立敏之

1. 川と人とのかかわりの再構築

川は、かつて、自然体験の場として重要な役割を果たしてきましたが、最近では、ふだんの水量の減少や水質の悪化、必要以上にコンクリートを主体とした整備を進めてしまったことなどにより、人と川との関わりが薄れてしまっています。

しかし、川は水と緑のオープンスペースとして、さらにはスポーツやレクリエーションの場として魅力ある空間であり、最近では豊かな自然の残された貴重な空間としても評価が高まっています。

このため、建設省では河川環境整備事業などにより親水空間の整備を進めるとともに、多自然型川づくりなどにより自然と調和した川づくりを進めるなど、潤いとふれあいのある水辺空間の整備を進めてきました。

また、ソフト面でも、中学生、高校生、一般の方々を対象として水生生物を指標とした水質調査を実施するなど、人と川との関わりが復活するよう、さまざまな取り組みを行っています。

さらに、河川環境保全モニター制度や河川愛護モニター制度を設け、河川環境の保全に市民の皆さんの参加をお願いしています。

なお、このような動きに合わせて、水に関わる地域交流活動や河川愛護活動、小中学校の川の副読本の作成等を行っている NGO 等各種団体に対し、河川整備基金による助成もを行っています。

2. 川における環境教育への取り組み

建設省では、平成8年度から、河川が子供たちの遊びの場、自然体験の場となるよう「水辺の楽校」プロジェクトを進めています。

この施策は、豊かで安全な水辺を、地域のボランティアや NPO の方々と協力しながら、子どもたちの遊び場として活用していこうというもので、現在までに、全国の154市町村、160カ所で登録を終えています。

さらに、本年8月には、文部大臣、建設大臣、環境庁長官の3大臣が合意して、「子供の水辺」再発見プロジェクトを推進していくことが決定されました。

このプロジェクトは、西暦2002年に実施される完全学校週5日制への移行に対応して、子供たちの遊びや自然体験の場となる川を「子供の水辺」として選定し、その利用の推進を図ろうというものです。その選定に当たっては、河川部局・教育委員会・環境部局等が連携して水辺を調査・点検し、ふさわしいものを登録するというもので、現状の水辺の利用を基本とし、必要に応じて「水辺の楽校」など既存の制度を活用して整備を行うこととしています。

3. 「川に学ぶ」社会をめざして

建設省では、川を活かした環境教育について検討を行うため、河川審議会に「川に学ぶ」小委員会を設置して検討を行い、本年7月に報告をとりまとめました。その報告では、

- ①人々の関心を高める魅力ある川
 - ②川に関わる広範な知識・情報の提供
 - ③川に学ぶ機会の提供
 - ④川に学ぶ社会に向けて必要とされる主体的・継続的活動
- 等が必要とされています。

今後はこの報告を受けて、「川に学ぶ」社会の実現に向けて具体的な検討に入り、さらなる推進に取り組むこととしています。

北川がっばの会の川づきあい活動と市民がつくった北川復元プラン

北川がっばの会 世話人 宮本 善和

「第1回川の日ワークショップ」で全国の名だたる名川をおさえ、新河岸川水系で唯一「いい川」ベスト10に入選した(！?)北川です。北川は源流を多摩湖(村山貯水池)に持ち東村山市を流れる小さな川です。かつて川で遊んだ大人たちの思い出はコンクリートで密閉された住宅地を流れていますが、流域には「となりのトトロ」の舞台の八国山や、田んぼと湿地のたたずまいの北山公園もありのどかな自然も残るよい所です。

北川がっばの会は4年前の発足以来、北川の清流復活、流域の自然保全・再生を夢見て、様々な「川づきあい活動」をしてきました。会員は4年間で170名になりました。川をよく知り、川と遊び、様々な人々と川談義を重ねてきました。カヌーでは野遊び好きの人が参加し、学習会では勉強熱心な人が、川そうじは体を動かすことが好きな人が参加します。また、「会費だけでも」という方もいます。できる範囲で参加してもらうことが基本と考えています。川そうじは毎回約150名の参加で8回目を数えます。毎年夏には、子供も大人も楽しく遊ぼうという趣旨で「わんぱく夏まつり」を開催しており、3回目は今年も2,000人が参加し、カヌーやザリガニ釣り、夜の映画会など盛況でした。市行政や市内諸機関・団体の他、建設省の後援も頂いています。

活動を通じ「昭和30年代までは数mの淵があり小魚を捕まえた」など新たな発見があり感動を呼びます。これらは北川復元を考える際に有益な情報です。川づきあい活動は北川復元のためのワークショップなのです。

これらを経て、私達が目指すべき北川の具体像が次第に見えかけています。そこで、市民自ら「北川復元プラン」を策定し行政に提案しよう、北川復元プランを策定しました。プランの中では、北川の現状や原風景、川に対する思い等を分析し目指すべき方向性を整理した上で、それを実現化する手法を検討し提案しています。行政の中にも「北川をよみがえらそう」という声が高まり、市民プランに注目が集まっています。

【北川復元の基本コンセプト】

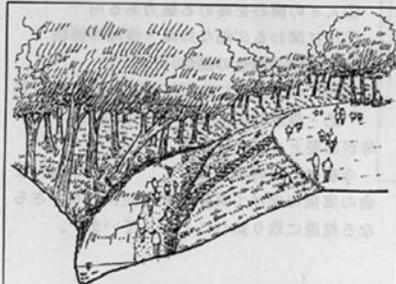
北川の自然の営みを蘇らせ、魚や鳥、昆虫等の在来の生き物を育む土壌が清らかな流れを取り戻し、「がっば」が溢れていた原風景を復元する。そして子供達が川遊びがら多くを学び、地域の人々の健やかな交流を育む、そんな北川との川づきあいを発展させ、次代に愛を込め受け継いでゆく。

【復元プランの主な提案内容】

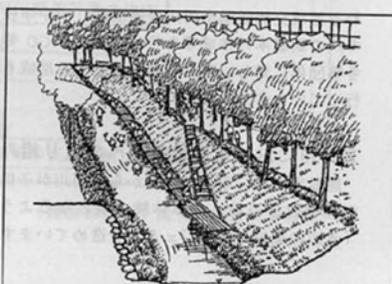
- 川岸護岸をできる限り土手に復元する
- 落盤工を魚が行き来できるように改良する
- 川を部分的に乾行させ瀬や淵を回復する
- 北山公園と一体となつた河原をつくる
- 水際の植物の育生と流れを多様化する
- 護岸を改良し湧水環境を回復する
- 流域の自然環境を保全し河原緑で彩りづくる
- 北山小脇の土手に水辺の茶寮を実現する
- 流域に雨水浸透施設の普及を促進する
- 多摩湖から維持流量の放流を検討する
- 北川とのつきあいを活性化
- 子供達の川遊びを見守る仕組みを作る、他

現在この成果を本にしようとして編集作業を進めており、この通信が発行される頃には刊行できている予定です。多くの人に読んでもらいたいと思っていますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせ下さい。

【北川復元プラン問合せ先】北川がっばの会 三島：東村山市野口町 3-11-8 TEL&FAX 042-391-2365



◆北山公園と一体となつた河原を復元する



◆北山小学校脇の土手に水辺の茶寮を実現する

新 河 岸 川 流 域 情 報

活動報告

既存河川整備計画の情報公開を

新河川法では、河川のルートや幅、標準断面などで決める河川整備計画は、従来の段階で公開され、字級経験者や地域住民の意見を聞くこととなった。この手続きがどのように具体化されるかは、われわれの重大関心事である。しかしそれ以前に、既存の河川整備計画の情報公開をおこなってもらう必要がある。それは現にこれに基づいて改修計画が進められており、またこれを見直すにしても、われわれにとって貴重な検討材料になるからである。

御瀬川の場合、清瀬橋まではすでにルートが確定しているが、その上流では現在の屈曲部を大胆に直線化する計画ルートが設定されている。清流庵住宅付近の自然度の高い部分が護河川となり、市民運動で守られることになった「瀧の森」も大部分失われてしまうことになっている。

このような、地域に対する影響の大きい計画が、いつ、どのようにして決められたのか、その性格はどのようなものなのか、かねてから知りたかと思っていたが、なかなか分らなかった。先日、東京都河川部計画課を情報交換の目的で訪ねた結果、ようやく大略のことが分かった。御瀬川の場合、新河岸川総合治水計画で各河川の計画流量が決定され、これを受けて東京都と埼玉県が協議し、1級河川部の全部(19.8km)について整備計画が作成され、1985年1月に建設大臣の認可を得て決定した。行政内部の手続きのみで決定されたものであり、公告、縦覧などの手続きは行われていない。現在は旧河川法から新河川法に移行する過渡期であるが、新法の精神を生かしてパートナーシップによる川づくりを進めるには、まず、既存河川計画に関わる情報公開を行うよう、要望したい。

御瀬川流域川づくり市民懇談会 鈴木 昭三

黒目川、落合川
Walching

2月6日朝9時

に、東久留米駅西口へ黒目川流域川づくりのメンバーが朝顔・新産から集まりました。

川づくりのメンバー以外に、地元タウン誌と広報誌のお出かけ情報を見て、初めて参加した方々を含め20名を揃えて、第2回のWalching(見て歩き)がスタートしました。落合川のいこいの水辺からの観察会となりました。野鳥の観察が今回のテーマです。まずオナガガモ・カルガモはすぐ側の水辺までよりつき、参加者の姿に対しても動じる事なく餌を探していました。初冬の川辺ですが幼児を連れて散歩している親子も案外多く見かけました。



見ながら、黒目川の合流点へ向いました。子供を水辺べに！と計画工事された、新産市の栗原の親水工事現場を落合川のいこいの水辺と時代が出来ました。午後には黒目川の中流域の大円寺を訪れました。住職の話では、20年前までは、寺の周辺は、湧水が数多くあったが、現在は、地下水位が低く雨の多い時に湧き出す時が有るとの事でした。

現場観察の後、マップづくりの作業としました。二本の東久留米の川には河原に木々が少なく鳥達には良い環境では無いと話が出て今回の見て歩きは終えられました。

マップづくりで川歩き

不老川流域川づくり市民の会では、今年度の中心的活動として「不老川川づくり・まちづくりマップ」を作っています。前年に作った上・下流2枚の案(?)地図を持って、毎月1回以上川歩きを行ない、水質・水量・護岸のようす・まわりの自然等の観察を行ない、地図に落としていきます。おかげで不老川の良い所、悪い所、提案したいアイデアなどいろいろ見えてきて、ますます川がいとしくなってきた今日この頃です。これからは、まとめの時期で、完成は来年5月の予定。案地も数策等には十分お役に立つと思います。欲しい方は、当会代表相馬(042-965-1741)に御連絡下さい。

不老川流域川づくり市民の会 丸橋 かほる

黒目川を市民の水辺に

黒目川の改修工事が進んでいる中、秋には朝顔で地域の人や中学生、大学生など多くの人が集まって、2回のシンポジウムが開かれました。

9月の1回目には、実際に水辺の茶寮を作った横浜市舞岡小学校の元校長と、建設省河川環境課長補佐が水辺の茶寮について、11月に行われた2回目には建設省河川計画調整官が、これまでの川づくりが川へのお客さんをなくしてしまつたという反省に立ってのお話をされました。

お話のあとは、地元町内会の方を交えたパネルディスカッションとなりましたが、子供たちが入って運べる川にするには、行政まかせではなく地域の人達も計画段階から参加し協力することが大事なのではないかというのが、参加したみんなの共通の気持ちでした。

新河岸川流域イベントスケジュール

1月24日(日)

斜面林の手入れとお楽しみ会
志木市柏町ふれあいの森 9:00
主催 エコシティ志木

1月24日(日)

トロッコの森 雑草公園ビオトープづくり
所沢市久米水天宮 9:30
主催 おおたかの森トラスト

1月24日(日)

三富の雑木林を守るつどいⅡ
中高伊勢丹配送センター前 10:00
主催 埼玉県

1月31日(日)

新春シンポジウム
一さめく川たち
主催 岡村直樹氏

1月31日(日)

東久留米市中央図書館 13:30
主催 黒目川流域川づくり懇談会
問合せ 0424-91-1204 佐藤

2月1日(月)

さいたま環境フォーラム
講演「有害化学物質と対策」
さいたま共済会館 10:30
主催 県環境科学国際センター

2月6日(土)

柳瀬川・東川源流歩き現地懇談会
西武線西武球場前 13:00
主催 柳瀬川流域川づくり市民懇談会

2月6日(土)

川を知る講座第6回
一水循環へのまざりー
講師 小倉健雄氏

2月6日(土)

東川山手ふるさと歴史館 14:00
主催 東川山手水と緑の市民懇談会
予約 042-393-5111 水と緑と公園課

2月7日(日)

河川愛護交流会
埼玉教育会館 13:00
主催 県河川課

2月7日(日)

申込み(1月22日まで)
048-830-5135
048-830-4855

2月7日(日)

森の作業と炭焼き
西武線入曽駅東口交番前 9:00
主催 おおたかの森トラスト

2月13日(土)

新河岸川フォーラム'99
9:00から4つのコースに分かれて
フィールドワーク、午後は和光市で
ワークショップ

2月13日(土)

主催 新河岸川流域川づくり懇談会
申込み 048-474-3504 04-747490

2月13日(土)

小手指の森のゴミ拾い
西武線小手指駅南口交番前 9:50
主催 おおたかの森トラスト

3月7日(日)

選別度計づくり
所沢西高校
主催 新河岸川水系連絡会
問合せ 048-474-2785 藤井

3月20日(土)

柳瀬川流域フォーラム
所沢市松井公民館 13:00
東京都、埼玉県 共催

3月20日(土)

388-1378 東京都環境保全局水質
整備全部
申込み 048-830-3077 FAX 048-
830-4772 埼玉県大気水質課

3月27日(土)

大森園地池のどんぐり植樹
埼玉県生態系保護協会入間支部
不老川流域川づくり市民の会
連絡先: 日比 0426-63-7394

3月27日(土)

県立飯能高校公開講座
1月17日(日) 9:00~
1月31日(日) 〃
2月7日(日) 〃

3月27日(土)

「だれでもできる身近な地下水の調査」
申込み 0429-73-4191 飯能高校
倉川先生

【クサガメ】

埼玉県生態系保護協会

堂本 泰章

水辺は北の国からやってきた様々な種類のカモたちでにぎやかに彩られています。その一方で、夏の間土手の草原を軽快に走り回っていたカナヘビも、水辺でのんびりとひなたぼっこをしていたクサガメの姿も見あたりません。彼らはいつかたいていどこかへ行ってしまったのでしょうか？

カナヘビは落ち葉などの下に潜って冬越しをするといわれていますが、クサガメは水の中で、それも冬の凍ってしまわぬように水深の深い場所で、水底の泥や落ち葉などの下に潜って冬越しをしています。

ところで、クサガメが肺呼吸を行う爬虫類の仲間であることをご存じの方は、不思議に思うかも知れません。つまり、「水面が凍ってしまおうと息ができないのではないか？」ということです。ご心配なく。水生のカメである彼らは、肺呼吸のほか補助的に皮膚呼吸ができ、体の活性が非常に低くなる冬は、空気にふれなくても水中で過ごすことができるのです。

クサガメは、冬眠場所である池や川の溝のほかにも、彼らが安心して産卵するための土の場所や、外敵からおそろわすい子ガメの時期に必要な水草の茂みなど、様々な自然の空間を必要とします。また、クサガメは普段住んでいる川などから少し離れた場所で産卵することが知られています。つまりクサガメが生きていくための決め手は、普段住んでいる水辺からクサガメが産卵する場所まで、カメが歩いて移動できるような連続性があるかどうかなのです。こうした連続性があることで、秋に産み落とされた卵から孵化したクサガメの子どもが、そのまま産卵場の中で越冬し、翌年の春を迎えて地上にはい出てきたときに、生息地である水場にたどり着くこともできるのです。

親ガメと子ガメが並んでひなたぼっこをしている・・・わたしたちの地域でもこんな光景のある夏が、また来るでしょうか？

それは、ぽかぽかと暖かい季節を迎えるまでのお楽しみです。



新河岸川フォーラム'99

2月13日(土)開催

週末開催で打合せも楽々です。……

生き物から見た水循環

スタート

グループA

900(予定)

グループB

あなたの里川を考えよう!

全体ミーティング
討論ワークショップ作業

グループC

水循環の課題を考える
フィールドワーク

グループD

中継、見て、触ること。考えごとをグループで
トーク・話し合い、言葉と地図に起こさない
自分の川を表現してください。

グループE

川は、いろいろな問題を
抱えています。見て、
聞いて、考えてください。

里川の探検マップをつくる

水循環は必ずしもテーマかな!

各グループごとの
ワークショップの成果を
発表

いっしょに解決策・課題や希望、夢、21世紀の里山と
グループでまとめたことを発表してください。
持ち帰り分、帰って!

市民有志による地域交流会

(里川交流会)

事務局: 池田和雄
コシエックアツキよりお申し込み。
ぜひ、お知り合いになってください。

情報をお寄せください!

見て、聞いて、歩いて感じたことや他の人にも伝えたいこと、これからの予定や参加者募集のお知らせ、チラシなどを郵便またはFAXでお送りください。
〒351 朝霞市朝志ヶ丘3-4-2-201
新河岸川フォーラム'99朝霞事務局
TEL/FAX. 048-474-3504

里川/山里の人の営みに関わり深い領域を表す言葉として「里山」を開きます。と同じように「人の生活に関わり深い、身近にある川」を「里川」と呼んでいきたい。
新河岸川は、まさに多くの里川の流れが集まった流域なのです。